

朝日村わんぱく交流

わんぱく交流 イン あさひ

この事業は、国の「都市農村交流事業」の一環で、山形県朝日村（当時）から墨田区への要請を受け、墨少連主管で開始された。当初二年間は「農村」を重視し、八月に墨田区の児童が朝日村を訪問して牛の搾乳や野菜収穫などを体験、春休みには朝日村から墨田区を訪問していました。

三年目からは「雪国」を重視し、一月に朝日村で雪遊びやスキーを体験し、朝日村からは八月に墨田区で都市体験をしました。どちらもホームステイの形で交流してきたのだが、諸事情により平成二十二年で打ち切りとなってしまいました。

墨少連五十年の活動の中でも、この「わんぱく交流」は体験学習の見地からしても重要な役割を担ってきた事業でした。今後かたちを変えてでも復活されることを期待しています。

《朝日村作文集から》

1 「まちにまったスキー」



やっとなついた。山形に着いた。指折り数えていた生まれはじめてのスキー。

でもちよつと不安だなー。とまるお家の子は何？でもそんな不安はすぐふきとんだ。朝日村にちかづくにつれて今まで見たこともない大雪を見たからだ。もう気持ちはスキーに雪遊び。朝日村のお友達と雪合戦、どこからか飛んできた雪玉が背中にあたった。われた雪が首の中に入ってもつめたかった。今日とまる佐藤さん家のおじさん、おばさんが迎えにきて近くの温泉に連れて行ってくれた。次の日、まちにまったスキー気持ちはルンルン、でもすべれるようになるか？けがしないか？でもスキー板に乗った時にはわすれていた。初心者の皆に板の乗り方、すべり方をていねいに教えてもらった。午後にはリフトに乗って下まですべってきた。来年もきてもつともつとすべれるようになるんだ。

2 「楽しかったソリ遊び」

今日はいよいよ東京に帰る日。帰る時間まであと1時間くらいになっておじさんが「ソリで遊ぶかい」と聞いたのできみちゃん達とさんせいした。ぬれるのでスキーウエアーをきてビニール袋ですべった。すごいスピードでこわかった。登るときも足がうまってこわかった。おしりが雪に入って立ち上がれなくなりました。私は雪の上を泳ぐようにして元の所にもどった。4, 5回すべったらもう行くよーといわれ集まる場所に送ってもらった。とても楽しかった。



3 「そくしんぶつさま」

ぼくは、しんだい車ブルートレインに乗るのははじめてでした。ドキドキしました、ねる場所は下だったからガタンゴットンとうるさくてあまりねられませんでした。ついたら雪がすぐありました。こんなに雪があるのを見たのははじめてです。開発センターからバスでそくしんぶつの所に行きました。僕はほとけさまだとおもいました、でもそくしんぶつさまは、ミイラでした。びっくりしてしまいました。僕は朝日村の友だちとかまくらを作ったりソリ遊びをしたりとても楽しい2日間でした。

《それから25年》

心の財産となる

丸山 なつき（旧姓 百瀬）

私が初めてわんぱく交流に参加したのは小学校3年生の時でした。わんぱく交流を通して体験したことは私にとって初めてのことばかりで、大人になった今でも鮮明に思い出されます。

東京生まれの私には自分の身長以上もある雪を見るのは初めてで、雪に囲まれた趣ある伝統的な家のつくりがとも印象的でした。雪だるま作りや雪合戦を初めて体験し、わくわくしたことを覚えています。また、初めてスキーをしたのもこの交流でした。すべり方や転び方までひとつひとつ丁寧に教えてくださったので、どんどん滑れるようになり、何度も何度もリフトに乗り、寒いのも忘れ夢中になって滑っていたと思います。

そんなたくさんの思い出のあるわんぱく交流ですが、一番良いところは「人との触れ合い」だと思います。ホストファミリーとして快く受け入れてくださったご家族の方や、交流会を運営してくださった方々も参加した私たちを自分の子どものように可愛がってくださったことが今も記憶に残っています。

振り返ってみると、自分が経験したことのもれもが貴重で、大切な体験だったことと改めて感じています。このわんぱく交流を通して自分が今まで知らなかった世界を体験することが、必ず成長していく過程の中で素晴らしい心の財産となり自分の糧になることと思っています。是非、今後も続いていくことを願っています。



交流事業の再開を!!

西山 久美子（旧姓 葛原）

私は墨田区太平町に住む三十代女性で6歳と3歳の子ともがいます。小学生のとき朝日村との交流事業に参加しました。冬にかまくら作りをしたり、暖かい一部屋にみんなが集い「みかん釣り」楽しんだり、スキーを教えてもらったりと、本当に楽しく過ごしました。

また、夏には朝日村から墨田区へホームステイにきてもらい、「錦糸町の駅前、臭い」と言われたときはショック…！普段住んでいると気づかないけれど、自然の中で暮らしている子どもには、この臭いはくさく感じるのかと驚きました。

田舎のない私にとって、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。そして、楽しんだ後は、子どもながらに「楽しいけど、やっぱり自分の住んでいる町(村)が好き！」と気持ちの確認をしたものです。

今、朝日村は町村合併でなくなり、また墨田区の子算削減などで交流事業自体もなくなってしまう、本当に残念です。上の子は今年小学生になります。田舎がありません。ですから特に、都会からはなれて自然豊かな中で生活する子どもたちとの交流をさせたい、そして子どもたち自身の世界を拡げてあげたい、と思っています。

交流事業の再開、発展を切に願います。



大雪ダルマ作り



平成二十一年度交流事業より

山形県鶴岡市朝日地域&墨田区ホームステイ交流が、墨田児童十四名、朝日の児童五名参加にて、平成二十二年一月九日(土)から十一日(月)まで行なわれました。

1日目、大鳥自然の家にて大雪ダルマ作り、きりたんぼ体験、火の神様によるキャンドルファイヤーと盛りだくさんの二日でした。

2日目には、湯殿山スキー場でのスキー体験後、各自ホームステイ先へとあつと言う間の三日間が過ぎてしまいました。

鶴岡市教育委員会朝日分室の方々をはじめ、朝日父母の会、花壇子の皆様、又、墨田の子ども達をホームステイさせていただいたご家庭の皆様、ありがとうございました。

火の神様によるキャンドルファイヤー



きりたんぼ体験



そば打ち体験

湯殿山スキー場でのスキー体験

